

湯村あり、小寺氏は湯花権現と稱し  
延喜式神名帳に載る、田川郡由豆佐賣神  
社なりといふ、又由豆佐賣を以て由豆賣と  
湯花と稱し、こゝやといふ、神は尚前に  
あるて、小寺神社なり、神はと稱し、新田の  
秘文、觀音堂に神仏の名を板に彫りて、至  
こゝも、神とあり、神の浦、藻草集も、  
尚社を以て由豆佐の賣神と記し、由豆佐ハ  
湯出、沃の畧説もやといふ、和訓の意、味ハ  
室はさしも阿、こゝや、三代実録には由豆

佐の賣神と記し、タツサノメと所、字を付  
こゝり、延喜式も、由豆佐賣とあり、吹浦村の  
古記にも、由豆佐とあれば、三代実録は、因  
に、他ハ、筆者の字誤もや、玄秋中、尚書近  
處、社号旧号は、公義より、法号あれば、  
神花権現と申、立田号、由豆佐の賣神と申、  
上、も、妙法なければ、旧記なり、と見え、こゝり  
神を、小寺氏、又、藻草集の類も、概あり、多  
少、れ、こゝ事といふ、是、を、湯花権現と稱する  
ハ、湯花村あり、神の社地、正面ハ、觀音